



第67回 日本生殖医学会九州支部会

会 長

増崎 英明

長崎大学医学部・歯学部附属病院 産婦人科

● 第67回 日本生殖医学会九州支部会 ●

日 時：平成22年 5 月 9 日(日) 9:00～16:18

評 議 員 会	9:00～ 9:20
総 会	9:20～ 9:30
一般学術講演会	9:30～12:50 13:30～16:18

会 場：エルガーラホール 7階中ホール
福岡市中央区天神1-4-2
TEL (092)711-5017

会 長 増崎 英明

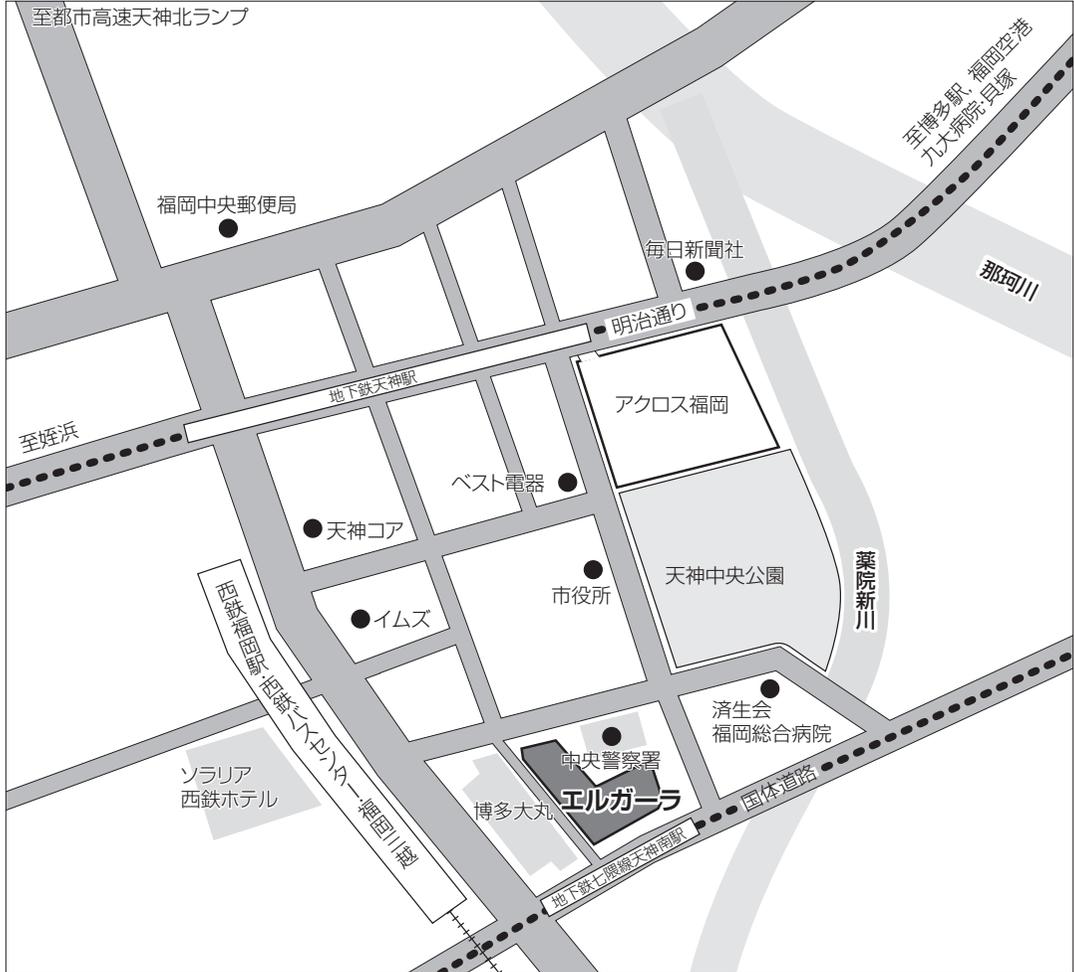
(長崎大学医学・歯学部附属病院 産婦人科)

〒852-8501 長崎県長崎市坂本1丁目7-1
TEL 095-849-7364
FAX 095-849-7365

〈注〉

1. 参加費 3,000円
2. 発表時間は発表5分・討論3分です。時間厳守をお願いします。
3. 発表はPC パソコンによる発表のみとさせていただきます。
必ずパソコンをお持ち下さい。
4. 学会当日はこのプログラムを必ず持参してください。
5. 質問がある方は予め質問マイクの近くに待機しておいてください。

会場案内



- | | | | |
|---------------|--------|----------|------------|
| ●地下鉄空港線天神駅より | 徒歩 5 分 | ●JR博多駅より | タクシー約 10 分 |
| ●地下鉄七隈線天神南駅より | 徒歩 1 分 | ●福岡空港より | タクシー約 20 分 |
| ●西鉄福岡(天神)駅より | 徒歩 2 分 | | |
| ●天神バスセンターより | 徒歩 3 分 | | |

PROGRAM

開会の挨拶 9:30

会長 長崎大学医学・歯学部附属病院 産婦人科 増崎 英明

第1群 [心理・看護] 9:30～10:02

座長 セント・ルカ産婦人科 宇津宮隆史

1 不妊治療後の妊娠・出産で子育てへの自信のなさを語る母親面接

1)九州厚生年金病院 臨床心理室、2)福岡大学大学院 人文科学研究科

○中田 史子^{1,2)}

2 近親者の妊娠を知った不妊患者の心情

医療法人 セント・ルカ産婦人科

○深田 留美、赤嶺 佳枝、上野 桂子、宇津宮 隆史

3 排卵誘発剤の自己注射に対する夫婦間の意識調査 ～配偶者(夫)による排卵誘発剤の自己注射を推奨して～

医療法人 セント・ルカ産婦人科

○井澤 里砂、河野 絢子、上野 桂子、宇津宮 隆史

4 当院での採卵時における麻酔前後の看護管理について

セントマザー産婦人科医院

○白柿ひろみ、田中 温、永吉 基、粟田松一郎、佐々木雅弘、赤司 聖子、
濱口 綾、武谷 賞子、松本 由華、東 智美、原田 寛子、嶋津 幸恵、
鎌田 美帆

第2群 [男性不妊・精子] 10:02～10:34

座長 天神つじクリニック 横山 裕

5 片側精管欠損に同側の陰のう内腫瘤と対側の非触知精巣を合併した閉塞性無精子症の1例

1) 天神つじクリニック、2) 恵比寿つじクリニック、3) 高木病院 産婦人科

○横山 裕¹⁾、成吉 昌一^{1,2)}、辻 祐治^{1,2)}、野見山真理³⁾、小島加代子³⁾

6 精管欠損症の超音波診断

1) 天神つじクリニック、2) 恵比寿つじクリニック

○成吉 昌一^{1,2)}、中野 和馬²⁾、横山 裕¹⁾、辻 祐治^{1,2)}

7 MD-TESE における迅速診断法の改良

1) セントマザー産婦人科医院、2) 神戸大学大学院農学研究科

○中嶋 美紀¹⁾、田中 温¹⁾、永吉 基¹⁾、粟田松一郎¹⁾、佐々木雅弘¹⁾、
田中威づみ¹⁾、竹本 洋一¹⁾、赤星 孝子¹⁾、加藤 由香¹⁾、楠 比呂志²⁾、
牟田口垂矢¹⁾、大村奈津子¹⁾、中村 洋亮¹⁾、高橋 如¹⁾

8 パーコール法および Swim up 法による X、Y 精子選抜における有用性

竹内レディースクリニック

○遊木 靖人、樽松 朋子、福元由美子、黒木 裕子、竹内 一浩

第3群 [培養・胚凍結] 10:34～11:06

座長 蔵本ウィメンズクリニック 蔵本 武志

9 培養3日目に遅延発生している胚を胚盤胞へ発生させる新しい培養方法の試み

蔵本ウィメンズクリニック

- 江頭 昭義、永渕恵美子、田中 啓子、石井 愛、峰 千尋、村上 正夫、大塚未砂子、吉岡 尚美、蔵本 武志

10 Single medium と Sequential medium の培養成績の比較

高木病院 不妊センター

- 塚崎あずさ、野見山真理、山田 耕平、西山和加子、宮本 恵里、山本 新吾、牧田 涼子、小島加代子

11 マウス胚を用いた反復凍結・融解処理に関する検討

1) IVF 詠田クリニック、2) 県立広島大学大学院 総合学術研究科

- 泊 博幸^{1,2)}、浅井のりこ²⁾、玉城 真理²⁾、内村 慶子¹⁾、國武 克子¹⁾、池邊 慶子¹⁾、本庄 考¹⁾、詠田 由美¹⁾、堀内 俊孝²⁾

12 凍結胚盤胞融解移植における凍結時と融解後の胚の評価と臨床成績の検討

松田ウィメンズクリニック

- 篠原真理子、川路 珠美、栗野早央理、末永めぐみ、平田 瑠美、伊藤 正信、松田 和洋

第4群 [ART 排卵誘発] 11:06～11:38

座長 IVF詠田クリニック 詠田 由美

13 当院における IVM 培養と臨床成績について

セント・ルカ産婦人科

- 熊迫 陽子、佐藤 晶子、小池 恵、城戸 京子、後藤 香里、長木 美幸、
大津 英子、宇津宮隆史

14 抗ミュラー管ホルモン (AMH) 値を参考にした ART の排卵誘発法の 選択について

蔵本ウイメンズクリニック

- 大塚未砂子、吉岡 尚美、福田貴美子、杉岡美智代、榎 美緒、鈴木 さよ、
村上 正夫、江頭 昭義、蔵本 武志

15 当院での ART における排卵誘発法、移植法の選択に関する検討

中央レディスクリニック

- 古恵良桂子、徳満 玲、永浦ひとみ、後藤さゆり、酒井あゆみ、結城 裕之

16 月経周期3日目のホルモン値による各種排卵誘発法の臨床成績の検討

セントマザー産婦人科医院

- 永吉 基、田中 温、粟田松一郎、佐々木雅弘、田中威づみ

第5群 [ART 遺伝] 11:38～12:10

座長 岡本ウーマンズクリニック 岡本 純英

17 当院における着床前遺伝子診断の治療成績について

竹内レディースクリニック

○遊木 靖人、樽松 朋子、福元由美子、黒木 裕子、竹内 一浩

18 生児を得たモザイク型ターナー症候群の ART 経験

IVF 詠田クリニック

○愛甲恵利子、詠田 由美、泊 博幸、國武 克子、内村 慶子、池邊 慶子、
谷口加奈子、秋吉 弘美、本庄 考

19 均衡型相互転座症例における FISH シグナル判定結果および 今後の検討課題について

1) セントマザー産婦人科医院、2) 弘前大学大学院医学研究科生体構造医科学講座

○竹本 洋一¹⁾、田中 温¹⁾、永吉 基¹⁾、粟田松一郎¹⁾、佐々木雅弘¹⁾、
田中威づみ¹⁾、赤星 孝子¹⁾、大村奈津子¹⁾、渡邊 誠二²⁾

20 マウス前核期卵への電気融合を用いたヒト割球の M 期染色体診断法の検討

1) セントマザー産婦人科医院、2) 弘前大学大学院医学研究科生体構造医科学講座

○大村奈津子¹⁾、田中 温¹⁾、永吉 基¹⁾、粟田松一郎¹⁾、佐々木雅弘¹⁾、
田中威づみ¹⁾、竹本 洋一¹⁾、赤星 孝子¹⁾、渡邊 誠二²⁾

第6群 [ART 成績] 12:10～12:42

座長 浜の町病院 産婦人科 井上 善仁

21 分割胚移植から胚盤胞移植への移行による成績の向上

医療法人聖命愛会 ART 女性クリニック

○小山 伸夫、小牧 麻美、中村 千夏、柴田 典子

22 当科における初期分割胚移植と胚盤胞移植の治療成績

琉球大学 医学部 産婦人科

○屋宜 千晶、安里こずえ、大久保鋭子、銘苺 桂子、青木 陽一

23 ART 妊娠児と自然妊娠児の成長・発達調査

竹内レディースクリニック附設不妊センター

○内村 知佳、永井由美子、立石こずえ、寺才元真由美、春田 睦美、竹内 美穂、竹内 一浩

24 体外受精における媒精時の各パラメータと臨床成績との関連について

セントマザー産婦人科医院

○加藤 由香、田中 温、永吉 基、栗田松一郎、佐々木雅弘、田中威づみ、竹本 洋一、赤星 孝子、牟田口亜矢

第7群 [ART ICSI] 13:30～14:02

座長 高木病院産婦人科 小島加代子

25 密度勾配法における遠心時間とc-IVF受精障害発生率との関連性

ソフィア愛育会 ソフィアレディースクリニック水道町

○中川 誠、松下富士代、岩政 仁

26 IVF-ETにおけるRescue-ICSIの有効性

ソフィア愛育会 ソフィアレディースクリニック水道町

○松下富士代、中川 誠、岩政 仁

27 Microfluidic Sperm Sorter (MFSS) 分離精子によるICSIの検討

1) IVF 詠田クリニック、2) 福岡大学産婦人科

○内村 慶子¹⁾、泊 博幸¹⁾、國武 克子¹⁾、池邊 慶子¹⁾、本庄 考¹⁾、
詠田 由美¹⁾、城田 京子²⁾

28 媒精7時間後におけるrescueICSIの有効性に関する検討

高木病院 不妊センター

○牧田 涼子、野見山真理、有馬 薫、小島加代子

第8群 [ARTの工夫] 14:02～14:34

座長 熊本大学大学院生命科学研究部 産科学婦人科学 本田 律生

29 Artificial shrinkage (AS) 法による凍結融解胚盤胞移植の検討

ART 岡本ウーマンズクリニック

- 秋吉 俊明、峰 尚美、松尾 完、緒方 大記、山口ますみ、福田 裕子、
鶴田 千鶴、山下ひとみ、山口 敦巳、岡本 純英

30 移植胚選別困難例における胚呼吸量測定の有用性

1) セント・ルカ産婦人科、2) 山形大学・大学院理工学研究科

- 後藤 香里¹⁾、熊迫 陽子¹⁾、小池 恵¹⁾、城戸 京子¹⁾、佐藤 晶子¹⁾、
宇津宮隆史¹⁾、阿部 宏之²⁾

31 当院の卵巣過剰刺激症候群 (OHSS) 回避への対策

セント・ルカ産婦人科

- 宇津宮隆史、岡田 清美、河邊 史子

32 頸管狭窄を伴う胚移植困難症例への対応

— 2筒式の利点を応用し中断と胚凍結で妊娠した超困難症例の報告 —

ART 岡本ウーマンズクリニック

- 岡本 純英、秋吉 俊明、峰 尚美、松尾 完、緒方 大記、山下ひとみ、
鶴田 千鶴、福田 裕子、山口ますみ、山口 敦巳

第9群 [その他・一般不妊] 14:34～15:06

座長 大分大学医学部 産科婦人科学 河野 康志

33 子宮筋腫核出術後に凍結胚移植を施行し妊娠成立した症例

1) ウィメンズクリニック糸数、2) 糸数病院

- 中里 和正¹⁾、糸数 修¹⁾、上原 尚¹⁾、山内 悠¹⁾、金城 貫亀²⁾、
糸数 健²⁾

34 ART 後、着床に苦慮した難治性子宮腺筋症合併不妊の1症例

IVF 詠田クリニック

- 本庄 考、詠田 由美

35 粘膜下に多発する子宮筋腫に関する臨床的検討

熊本大学大学院 生命科学研究部 産科学婦人科学

- 岡村 佳則、本田 律生、伊藤 史子、本田 智子、内野貴久子、大場 隆、
片渕 秀隆

36 治療に苦慮した hMG 抵抗性の視床下部無月経の妊娠例

鹿児島大学病院 女性診療センター

- 沖 利通、河村 俊彦、儀保 晶子、福田 美香、山崎 英樹、堂地 勉

第10群 [その他・症例] 15:06～15:38

座長 鹿児島大学病院女性診療センター 沖 利通

37 子宮体癌I a期に対する保存療法後に妊娠、分娩した一例

1) 済生会長崎病院 産婦人科、2) 長崎市立市民病院 産婦人科、3) 長崎市立市民病院 病理、
4) 久留米大学医学部 産婦人科

○下村 友子¹⁾、藤下 晃¹⁾、松本亜由美¹⁾、佐藤 二葉²⁾、森崎佐知子²⁾、
小寺 宏平²⁾、入江 準二³⁾、牛嶋 公生⁴⁾

38 不妊治療中に急性肝炎(薬剤性肝炎)を発症した一例

福岡大学 医学部 産婦人科

○中山 直美、友田 和子、城田 京子、宮本 新吾

39 骨髄移植後に続発性無月経となり腔閉鎖となった1例

大分大学 医学部 産科婦人科

○吉良 尚子、河野 康志、川野由紀枝、高井 教行、榎原 久司

40 多毛を主訴とした先端巨大症の稀な1例

鹿児島大学 医学部 産婦人科

○福田 美香、山崎 英樹、岩元 一郎、沖 利通、堂地 勉

第11群 [その他・流産など] 15:38～16:10

座長 長崎大学病院 産科婦人科 井上 統夫

41 当科で管理した性同一性障害に対するホルモン療法について

長崎大学 医学部 産婦人科

○城 大空、井上 統夫、平木 宏一、増崎 英明

42 反復着床障害における抗フォスファチジルエタノールアミン抗体の意義

ソフィア愛育会 ソフィアレディースクリニック水道町

○岩政 仁、中川 誠、松下富士代

43 当院における反復流産の原因の検討

古賀文敏ウイメンズクリニック

○古賀 文敏、小川真由美、泊 恵理子、河野 麻知子、古賀 三美、沖 宏子、
藤井 絹江

44 臨床現場における不育症診療の今後の検討課題について

セントマザー産婦人科医院

○栗田松一郎、田中 温、永吉 基、佐々木雅弘、田中威づみ

日本生殖医学会九州支部長挨拶

閉会の挨拶

会長 長崎大学医学・歯学部附属病院 産婦人科 増崎 英明

一 般 演 題

1. 不妊治療後の妊娠・出産で子育てへの自信のなさを語る母親面接

¹九州厚生年金病院 臨床心理室
²福岡大学大学院 人文科学研究科
○中田 史子^{1,2)}

【問題と目的】新しい家族を迎え、関係性が育つという視点に立つ時、一人ひとり、家族という単位で、一生涯を通した心理援助の必要性がある。また、常に変化していく子どもと家族の関係性を支え、ケアをしていくことも不可欠である。Dさんとの面接を通して、家族の育ちを援助する機会が得られたので報告する。

【方法】30代女性。X-4年にIVF-ETで双胎妊娠、帝王切開で出産。X年5月、小児科医より「1年前から薬指を鼻につっこむ癖に母親が困っているのだから相談に乗って欲しい」と依頼がある。交通事故を契機に母親にストレス反応が出現、精神科受診。小児科・精神科外来での支援体制となる。語りの中から、不妊治療が母親自身に与えた影響について検討する。

【結果・考察】初回面接時「薬指を鼻につっこむ癖がひどくなってきたので何とかしたい」を主訴に相談。児の様子から分離可能と判断された時点で母子並行面接となった。母親は交通事故を契機に、子育てへの自信のなさや、不妊治療を開始したことで夫とは別居となっていたこと、治療が辛くて傷つき、逃げ出したい気持ちでいたこと、直近になり家族で暮らすようになったが、夫から子育ての仕方について叱責されるのでどうしていいのかわからなくなっていたことが語られた。以上より、治療中のみならず、母親という新しい役割を獲得する際には、長期的な支援が必要である。

2. 近親者の妊娠を知った不妊患者の心情

医療法人 セント・ルカ産婦人科
○深田 留美、赤嶺 佳枝、上野 桂子、
宇津宮隆史

【目的】近親者の妊娠を知った不妊患者の心情を調査し、今後の支援のあり方を検討する。

【対象・方法】2009年10月～11月に外来受診した患者300人に当院作成の質問紙を配布し無記名にて回収した。回収は232人、回収率は77%であった。

【結果】自分より後に結婚した近親者の妊娠報告を受けた事がある人44%のうち、祝福できる妊娠者は、実妹56%との回答に対し、夫の妹には9%が祝福でき、45%が祝福できないと回答した。妊娠報告を聞いた直後の気持ちは、「自分も早く妊娠したい」「羨ましい」が各85%であった。妊娠を聞いた直後の自分の思いをしっかりと聞いてもらった人24%、少し聞いてもらった人48%であった一方で、27%が誰にも聞いてもらっていなかった。気持ちを話した相手は、86%が夫を挙げている。妊娠を聞いた直後の気持ちは継続期間は、10日以内が23%であった一方で、22%が半年以上も継続していた。望むサポートは、メール相談42%、リラクゼーションルーム36%などが挙げられた。

【考察】近親者の妊娠報告は祝福できる気持ちの有無に関係なく、「自分も早く妊娠したい」「羨ましい」などの思いが強く、夫に話した人が多かった。誰にも気持ちを話していない人や半年以上も直後の気持ちが継続している人が20%以上見られたことから、近親者の妊娠は、不妊患者にとって根深い思いがあり、周囲の理解と配慮あるサポートが必要と考えられる。

3. 排卵誘発剤の自己注射に対する 夫婦間の意識調査

～配偶者(夫)による排卵誘発剤の
自己注射を推奨して～

医療法人 セント・ルカ産婦人科

○井澤 里砂、河野 絢子、上野 桂子、
宇津宮隆史

【目的】 不妊治療に対する気持ちを夫婦間で共有する方法として夫による自己注射を推奨し、夫婦間の治療に対する意識の変化を調査・検討する。

【対象・方法】 2009年5月～2009年8月の間に、自己注射を始める患者に注射方法を指導する際、夫から自己注射を施行してもらうことを説明した。1周期自己注射後、当院作成の質問紙を配布・回収した。53組から同意を得られ41組の有効回答を得た。

【結果】 夫から注射を受けたことのある女性の回答では、自分で注射するよりも針を刺される恐怖感を感じた(50%)、治療を共有している感じがして良かった(45%)、自分で注射するよりも針を刺される恐怖感が減った(23%)であった。「自己注射をしてもらうようになり夫の治療に対する態度は変わりましたか」では、夫による注射後、夫が治療に関心を持つようになった(18%)、夫婦で治療に関する話をよくするようになった(14%)であった。夫にも同様の質問をすると、治療に関する話をよくするようになった(30%)、治療に積極的に参加するようになった(17%)であった。

【考察】 夫に注射を施行してもらうことは、夫婦で治療を共有するきっかけになったと考えられる。夫婦ともに夫による自己注射を望む気持ちはあるが、手技的な恐怖心や不安があるために実施が難しい面が見られた。医療者側は夫婦が安心して注射を実施できるように個別にサポートをしていく必要がある。

4. 当院での採卵時における麻酔前後の 看護管理について

セントマザー産婦人科医院

○白柿ひろみ、田中 温、永吉 基、
栗田松一郎、佐々木雅弘、赤司 聖子、
濱口 綾、武谷 賞子、松本 由華、
東 智美、原田 寛子、嶋津 幸恵、
鎌田 美帆

当院の ART 治療において、採卵当日の手術室看護師の管理業務について報告する。県外からの来院患者が多く、遠隔治療を含め一日平均10～20、件の採卵がある。午後には帝王切開や男性不妊症手術、腹腔鏡検査、卵管鏡下卵管形成術等の手術が控えているため、午前中で終了する必要がある。そのため、安全かつ迅速な採卵を行わなければならない。患者はまず、外来にて問診表、血圧、体重、子宮内膜厚測定、卵胞の状態を確認し、静脈麻酔か坐薬での採卵を決める。2つの手術室を円滑に使用するため、前日より予定表を作成し、当日はリーダー1名、採卵4名、フリー最低1名の看護師で編制している。各看護師が役割を持ち、患者の搬入から、術後の経過観察を行っている。麻酔法は「プロポフォール+笑気法」を用い、ペンタゾシンも併用している。患者の体格や卵胞の数、疾患の有無によって、医師の指示により使用する麻酔薬の種類や量を調節し、採卵終了後から3分以内で覚醒できるようにコントロールしている。麻酔中の呼吸抑制や咳き込み、体動などのトラブルもかなり減少させる事ができた。その後、殆どの患者が1時間以内には付き添いにてトイレ歩行、外来診察を済ませ帰宅する事が可能である。しかし、麻酔後の回復不良な患者には特に注意を払い、状態により1泊入院を勧める場合もある。また重症 OHSS 患者には、全胚凍結保存も勧め、帰宅せずに1週間前後の入院管理を勧めている。

5. 片側精管欠損に同側の陰のう内腫瘍と 対側の非触知精巣を合併した 閉塞性無精子症の1例

¹天神つじクリニック

²恵比寿つじクリニック

³高木病院 産婦人科

○横山 裕¹⁾、成吉 昌一^{1,2)}、
辻 祐治^{1,2)}、野見山真理³⁾、
小島加代子³⁾

【症例】41歳、男性。無精子症のため当院を受診した。

【現症】初診時の所見では、右精巣は正常大だが右精管を触れず、さらに右陰嚢内には数珠玉状で石様硬な腫瘍があり、精巣上体と区別できなかつた。左精巣は触れなかつた。直腸診では前立腺は正常大で、異常所見を認めなかつた。

【US 所見】超音波断層法(以下 US)では右精巣の推定容積は12mLで、右精巣上体には腫大はなく、石灰化像を伴う右陰嚢内腫瘍像とは連続性はないものと判断された。左精巣は描出されなかつた。経直腸 US では前立腺と左精嚢は正常であったが、右精嚢は描出されなかつた。

【内分泌検査】内分泌検査の結果はFSHが8.9 mIU/mLとわずかに上昇しているのみで、LH、テストステロンは正常範囲であった。

【X線検査】排泄性尿路造影および腎 US で左腎は描出されず、右腎は代償性に肥大していた。

以上の結果より、右精管欠損による閉塞性無精子症、右陰嚢内腫瘍、左低形成腎および左非触知精巣と診断し、右精巣内精子回収術と右陰嚢内腫瘍摘出術を施行した。

【手術所見】右精巣および精巣上体より多数の精子を回収できた。その後、右陰嚢内腫瘍を摘出したが、右精巣および精巣上体とは関連性はなく、鞘膜由来と考えられた。

【病理所見】病理組織学的検査の結果は右精巣が maturation arrest (Johnsen's score : 6.58) で、陰嚢内腫瘍が nodular periorchitis であった。

6. 精管欠損症の超音波診断

¹天神つじクリニック

²恵比寿つじクリニック

○成吉 昌一^{1,2)}、中野 和馬²⁾、
横山 裕¹⁾、辻 祐治^{1,2)}

【目的】閉塞性無精子症(OA)と考えられる症例で精管を触知しなければ精管欠損症が疑われるが、精管の触診は泌尿器科医の経験や技量に左右され客観性に乏しいと言わざるを得ない。今回われわれは精管欠損症の診断における超音波検査法(US)の役割、特に経直腸 US の有用性について検討した。

【対象と方法】対象は2003年7月から2010年1月までに OA と診断された症例のうち、精管を触知せず、精管欠損症が疑われた13例。陰嚢 US では10MHz リニア型探触子、経直腸 US では5MHz エンドファイヤー型探触子を使用し、陰嚢 US では精巣上体を、経直腸 US では精嚢・精管膨大部を中心に観察した。

【結果】13例中7例では陰嚢 US での精巣上体の異常所見(腫大:4例、尾部欠損:3例)に加え経直腸 US で精嚢が描出されなかつた。4例では陰嚢 US で精巣上体の異常を認めなかつたにもかかわらず、経直腸 US で精嚢が描出されず、精管欠損と考えられた。2例では陰嚢 US で精巣上体の腫大を認めたが、経直腸 US では異常所見を認めなかつた。

【まとめ】陰嚢 US での精巣上体の腫大所見のみでは精管欠損症と射精管閉塞などその他の精路閉塞との鑑別は困難であるが、経直腸 US で精嚢が描出されなければ精管欠損症が強く示唆される。

第67回日本生殖医学会九州支部会

会 長：増崎 英明

発行所：大分大学医学部 産科婦人科学
〒852-8501 長崎県長崎市坂本1丁目7-1
TEL 095-849-7364 FAX 095-849-7365

出 版： 株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025